

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立 東港中 学校長

令和6年度 学校評価報告書

学校教育の努力点（主題）	特に大切にしたい要素					
	I	II	III	IV	V	VI
『じりつ』（自律・自立）できる生徒の育成	○			○		

1 実践のねらい

義務教育が終わる中学生において、将来、他への従属から離れて独り立ち（自立）ができるように指導していくことは中学校の責務である。また、自立し社会で生きていくためにも、自分自身で立てた規範に従い行動すること（自律）が大切である。本校生徒は、その事象がなぜそうなるかなど根拠を考えることや自分なりの意見をもつことが苦手であると感じる。また、基礎的・基本的な学力がまだまだ足りない現状がある。

そのため、『じりつ』できる生徒」を育成するためにも、「自分で考え判断する力を養う」ことと「基礎・基本の定着」が必要であると考えた。

2 実践のねらいに迫るための手だて

(1) 自分に合ったペースや方法で学ばせていくための授業づくり

ア どのように学ぶかを重視しして、できるだけ単元を見通して計画をする。

(2) ICT活用による基礎・基本の定着

ア 朝学習等の時間を使って、タブレットのドリルアプリを積極的に活用する。

イ ドリルアプリで練習の成果を、基礎学力コンクールで実感させる。

3 実践の内容

(1) 各教科で1人の指導者を決めて、実践を行った。

例えば、国語科では、生徒が主体的に取り組める課題と対話的に取り組める場面の設定を生徒がいきいきと取り組む説明文の読解に取り組ませた。

(2) 基礎学力コンクールで、基礎・基本の定着を実感させるために、タブレットで自主的に取り組ませた。

4 成果と課題

自己評価結果では、「生徒に分かりやすい授業になるように努力することができた」「生徒が意欲的に取り組むことができるように授業を工夫した」の質問に対して、肯定的な回答の割合が高く見られた。また、学校関係者評価として、『じりつ』というテーマは、本校の生徒に必要な力である。今後も生徒の良い変容が現れるように、実践を続けてほしい」という意見があった。今後は、学習の基礎・基本の定着について、基礎学力コンクールをさらに活用するなど、改善させていきたい。

5 来年度に向けて

自由進度学習を各教科で進めることに難しさを感じた。今後は、学びのコンパスの重視したい姿にある「夢中で探究する」について、キャリア教育と結びつけながら、研究をしていきたい。